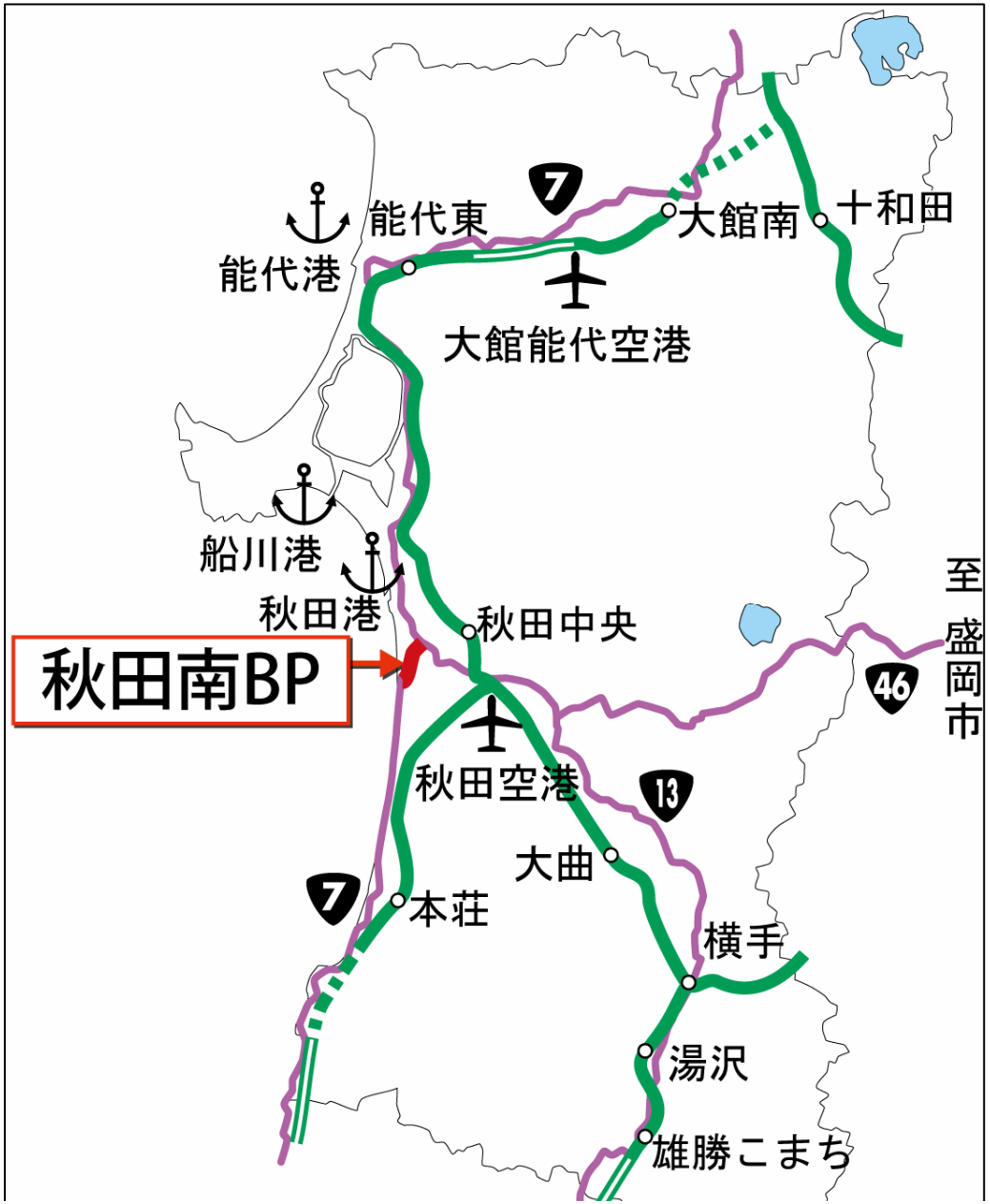
平成１９年度事業評価監視委員会（第２回）資料

補足資料２

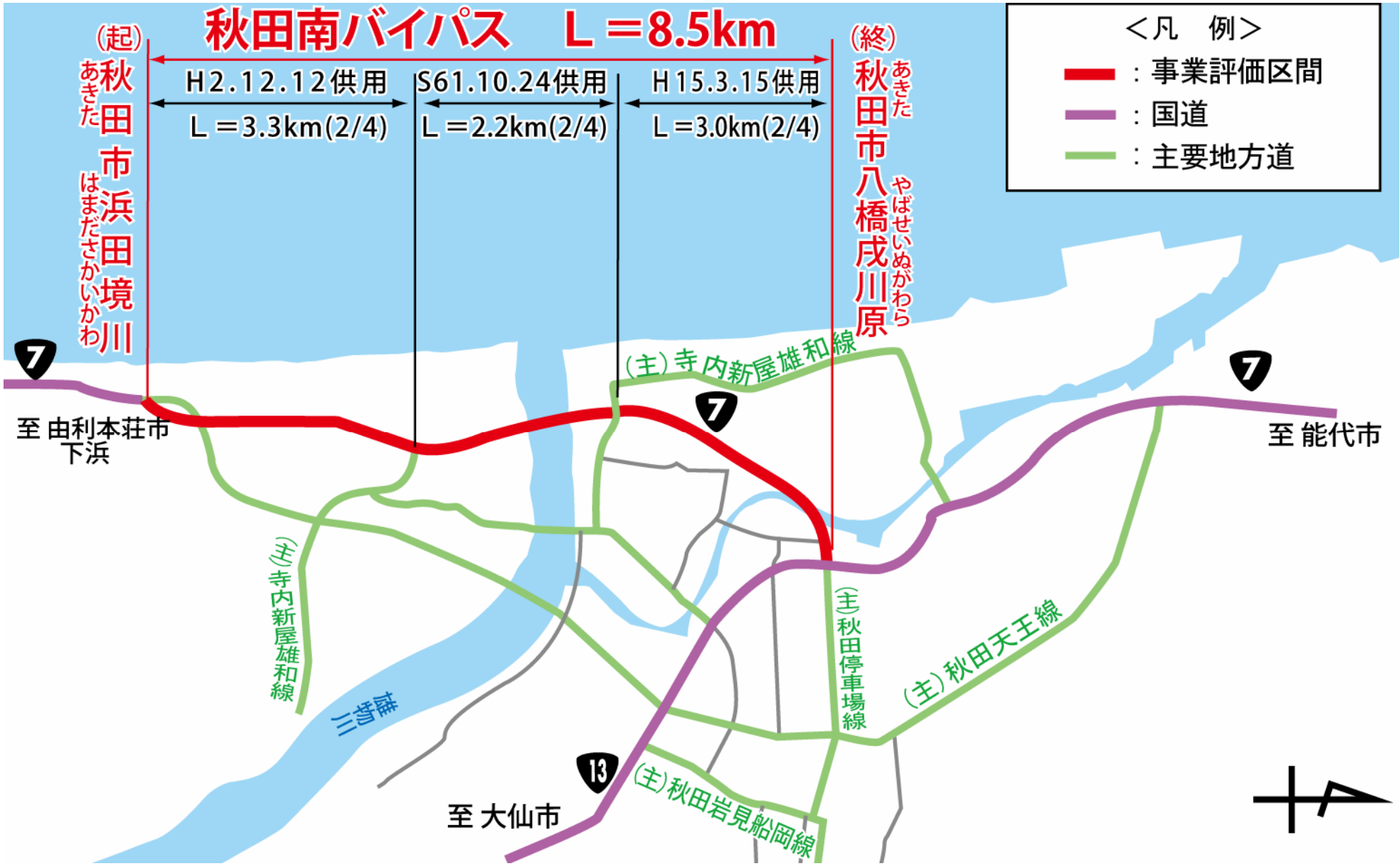
事 後 評 価 対 象 事 業
パワーポイント説明資料

一般国道7号 秋田南バイパス（あきたみなみ）



道路事業評価対象箇所	
高規格幹線道路	
直轄国道	

一般国道7号 秋田南バイパス（あきたみなみ）



一般国道7号 秋田南（あきたみなみ）バイパス

【評価要件：事業完了後 5年以内の事業】

○事業の目的

・円滑な交通の確保

・交通安全性の確保

・沿道環境の改善

○延　　長　：　L＝8．5km

○事 業 化　：　昭和50年度

○工事着手　：　昭和56年度

○供　　用　：　昭和61年度　L=2.2km
　　平成 2年度　L=3.3km
　　平成14年度　L=3.0km

秋田南バイパス用地難航箇所

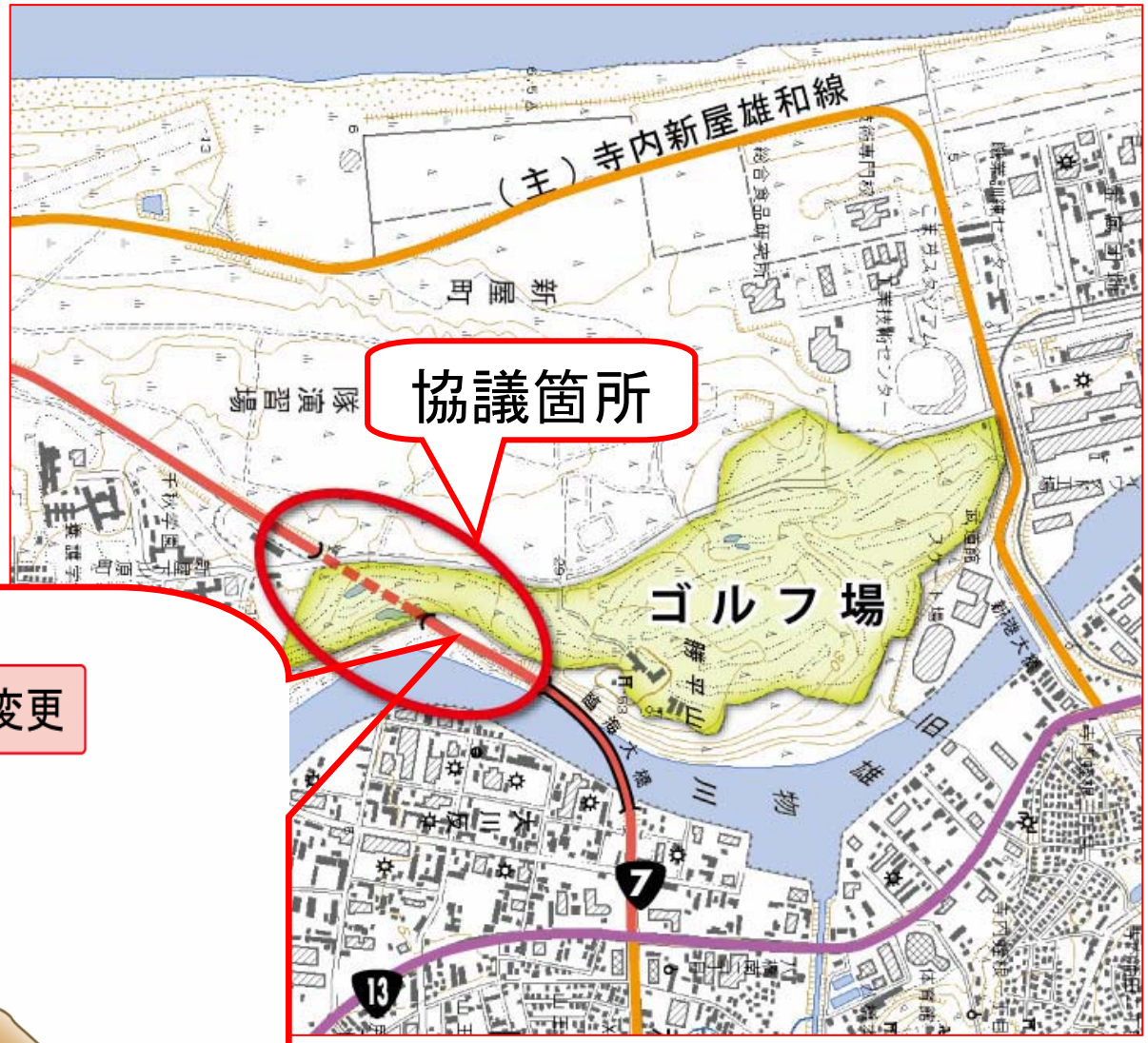
（あきたみなみ）



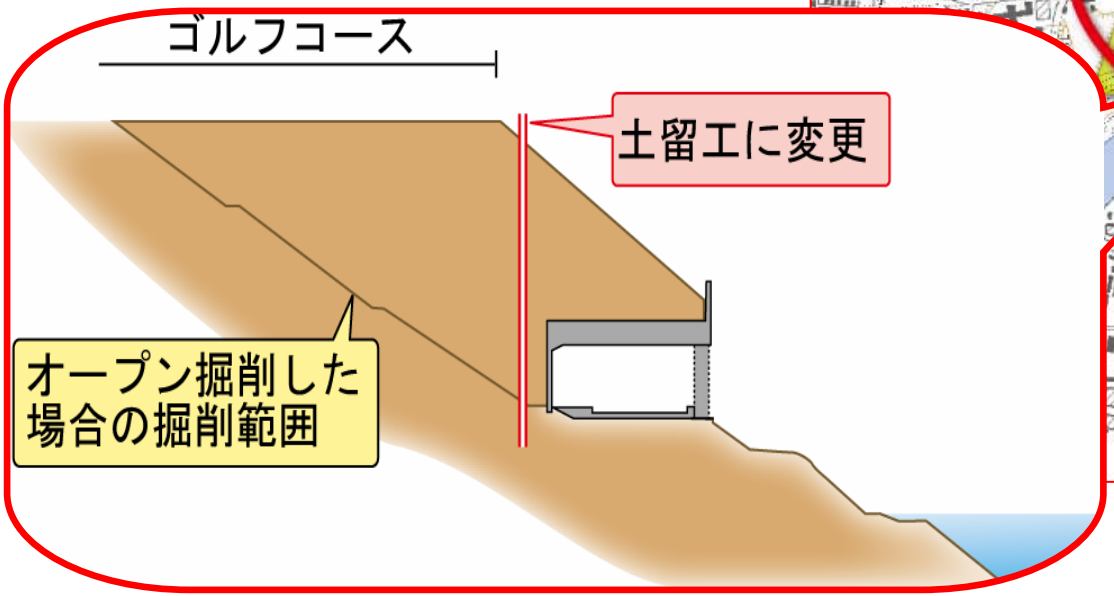
▲新屋演習場

秋田南（あきたみなみ）バイパス協議難航箇所

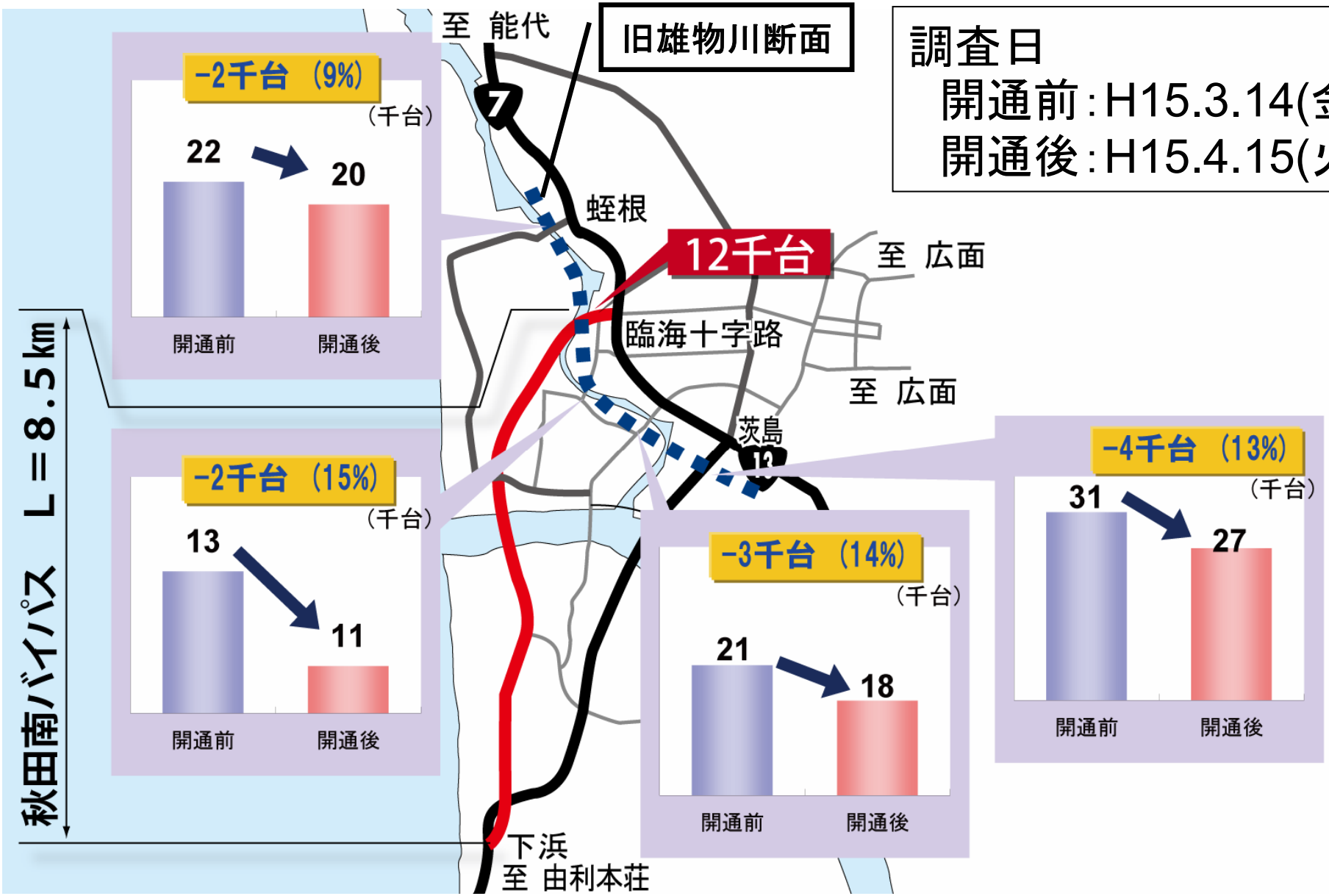
コース再編が絡むため、用地補償や工法検討に期間を要した



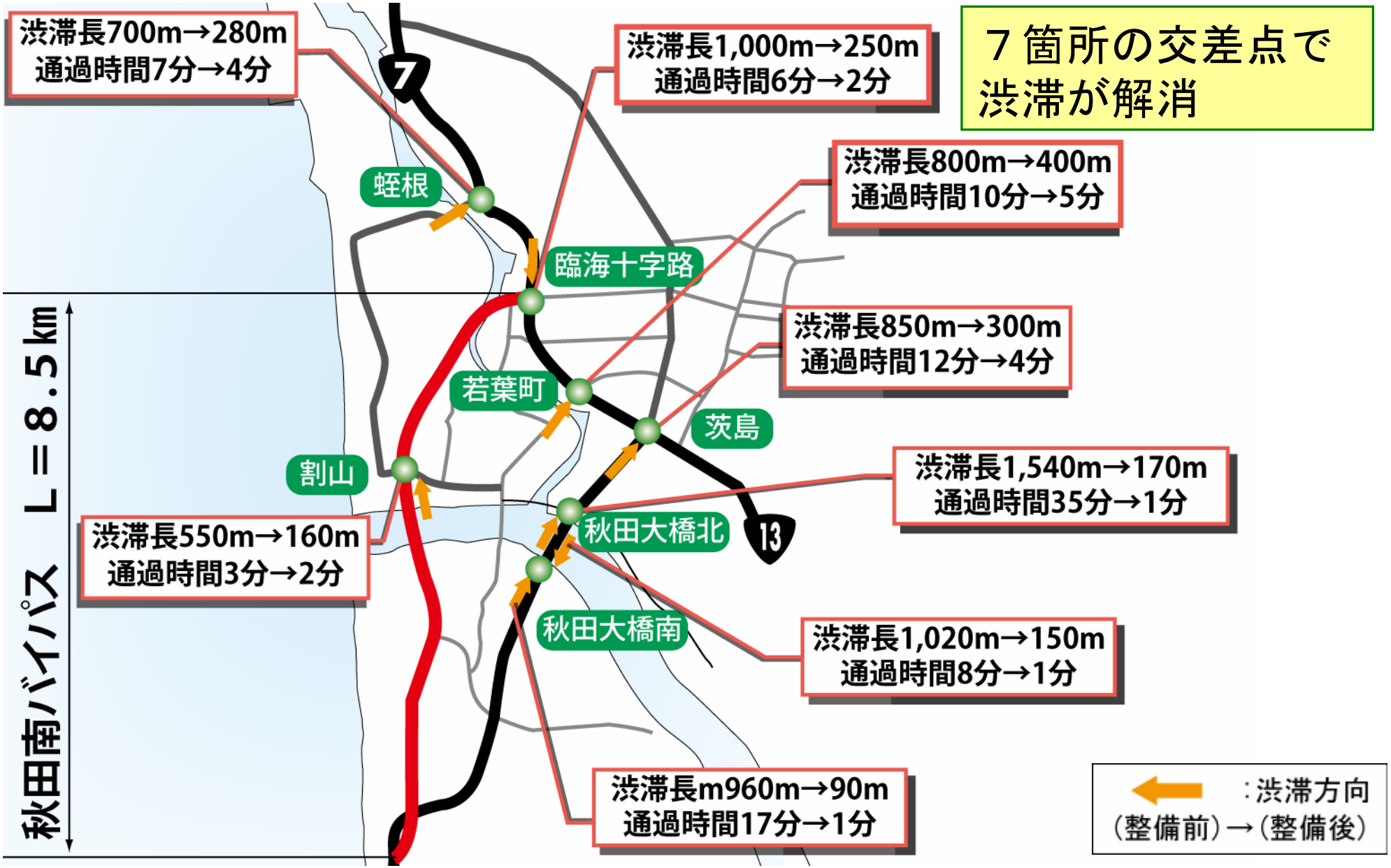
▲ゴルフ場



周辺道路の交通量が減少



秋田南（あきたみなみ）バイパス現道等における渋滞の解消



秋田南バイパス現道等における渋滞の解消

整備前



整備後

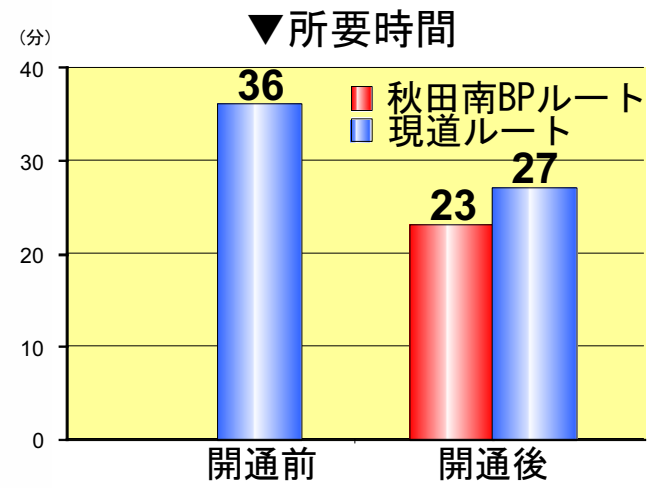


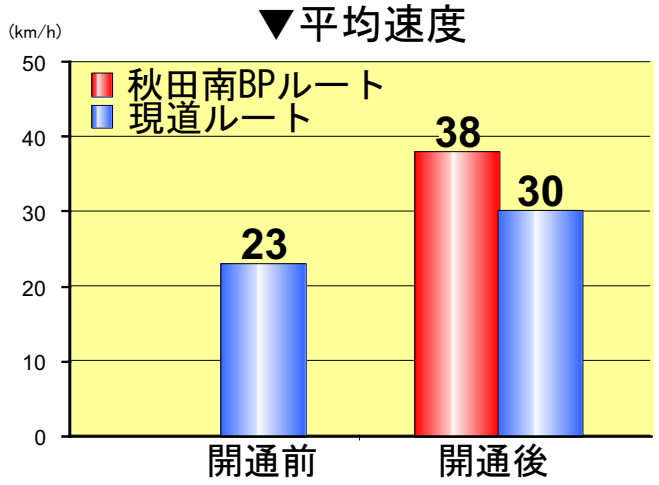
▲国道7号茨島交差点

走行速度の改善

下浜地区～県庁間の所要時間が13分短縮、平均速度も7kmアップ

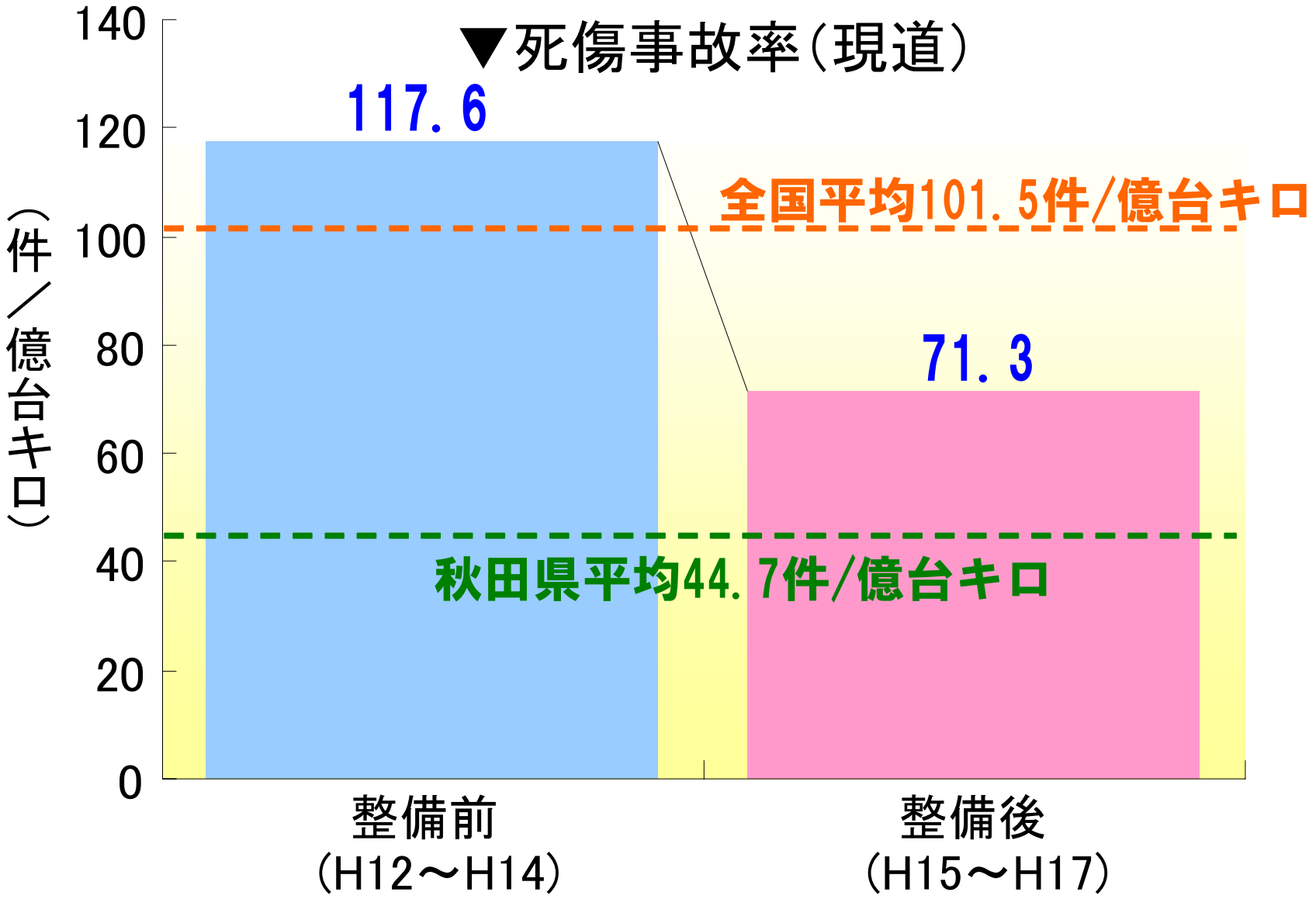






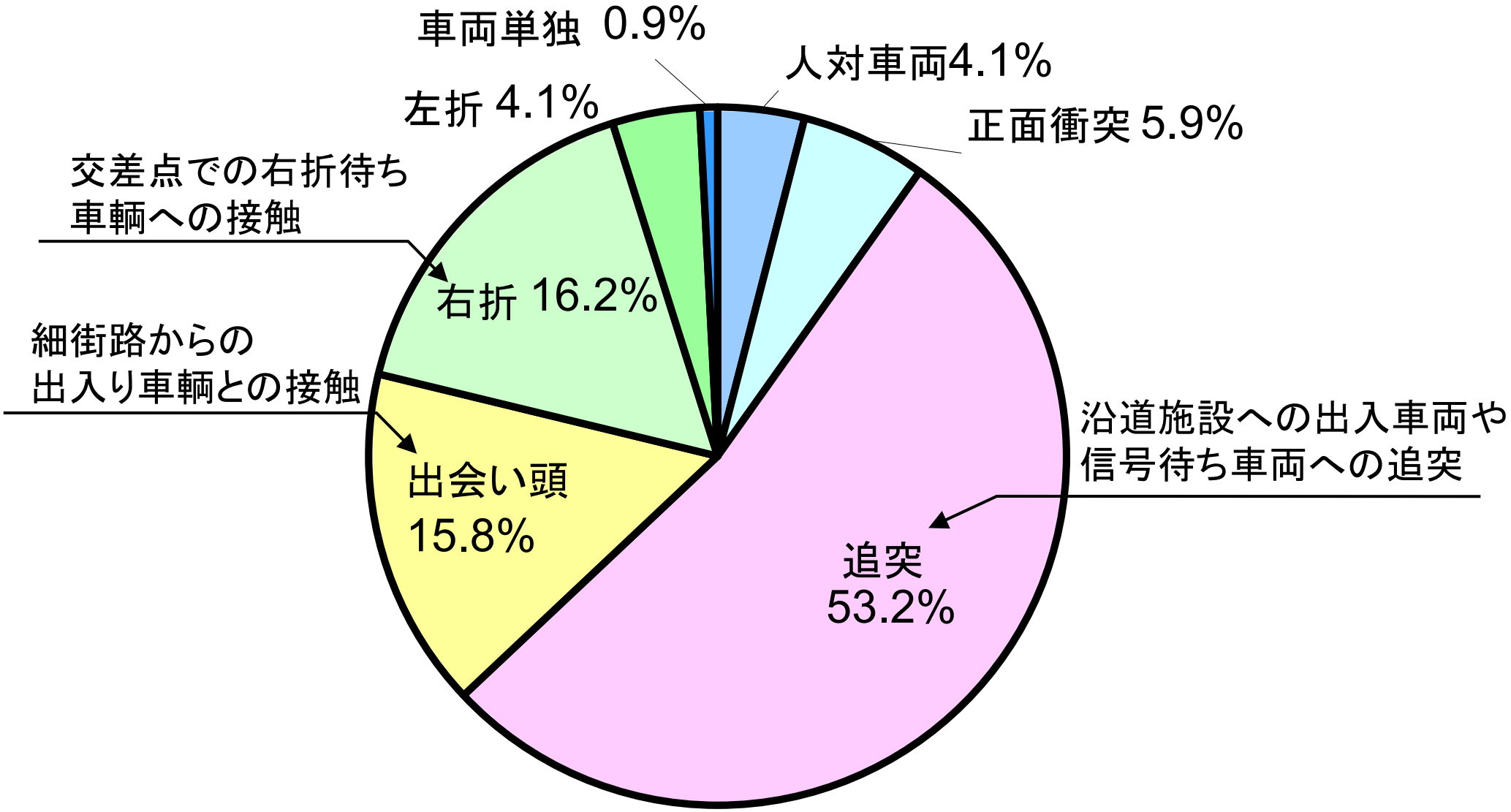
▲下浜地区～県庁間の所要時間・平均速度の推移

交通事故の減少



※出典:各年事故統合データ

交通事故の要因



▲整備後の事故類型(現道)

交通事故の対策実施例

・カラー舗装や看板の設置により事故多発区間を道路利用者に注意喚起

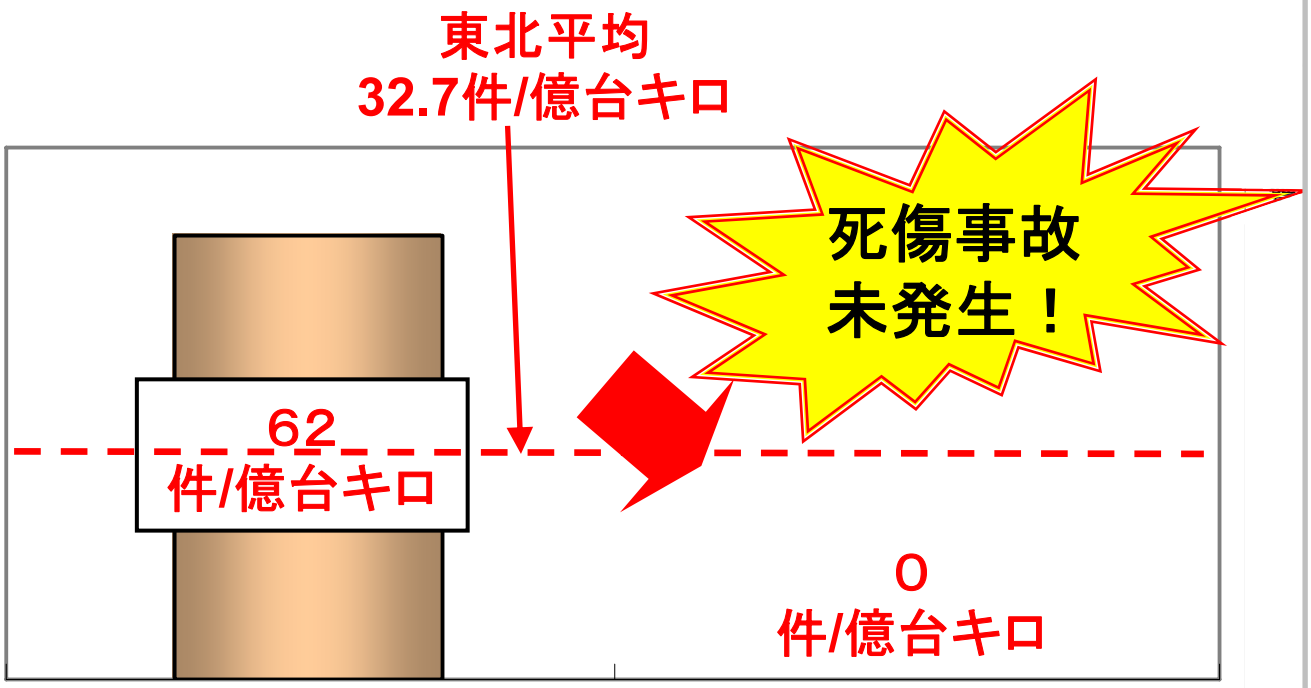




▲一般国道112号　山形県西川町海味（H17.8対策）

交通事故の対策実施例

事故多発区間の事故が減少

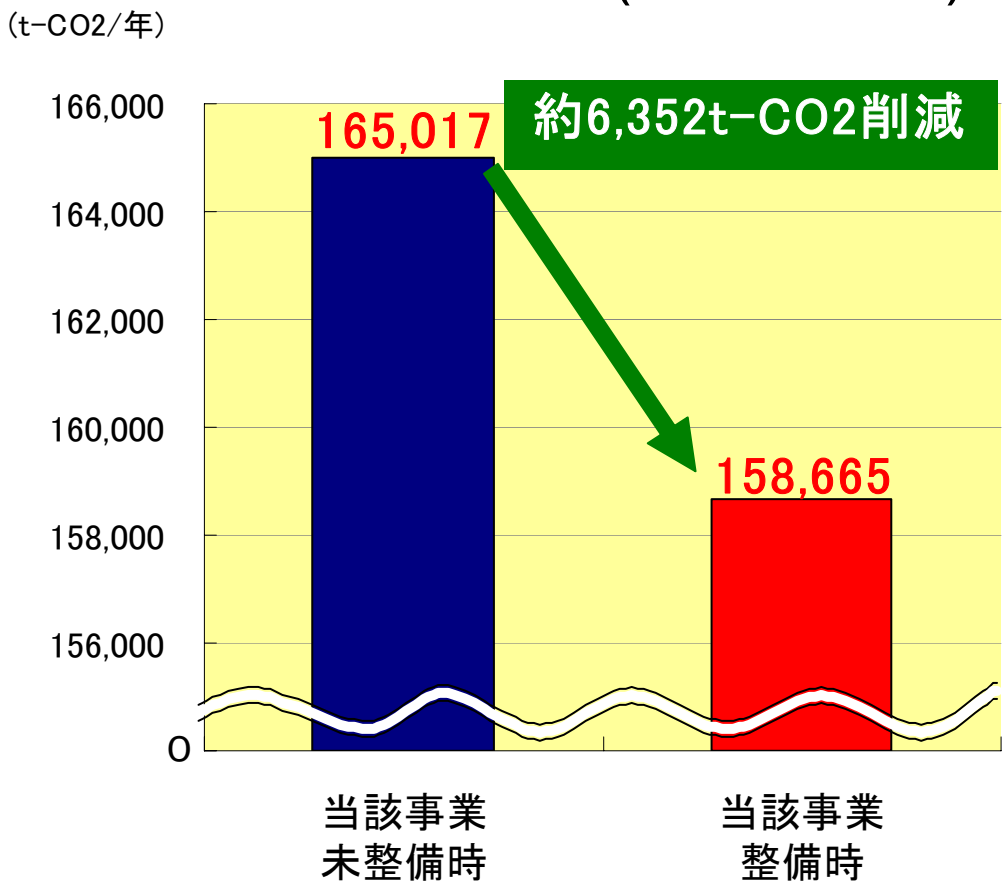


▲死傷事故率の変化（山形西川町海味（かいしゅう））

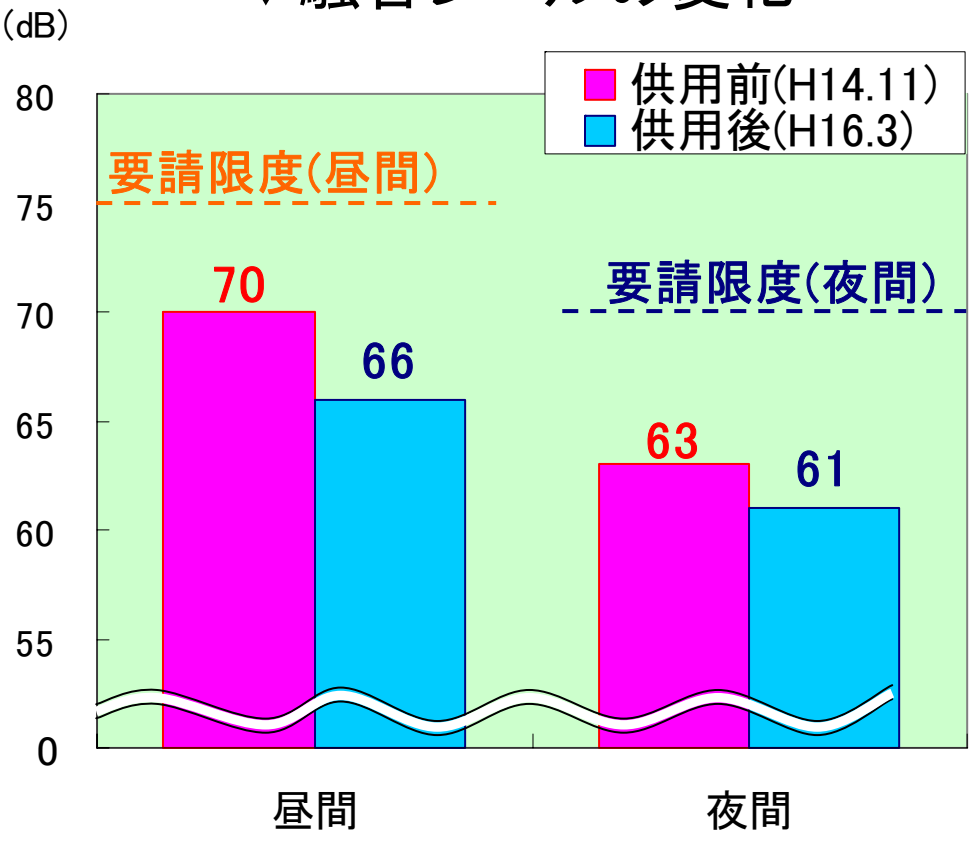
新聞記事未掲載

沿道環境の改善

▼二酸化炭素(CO_2の削減)



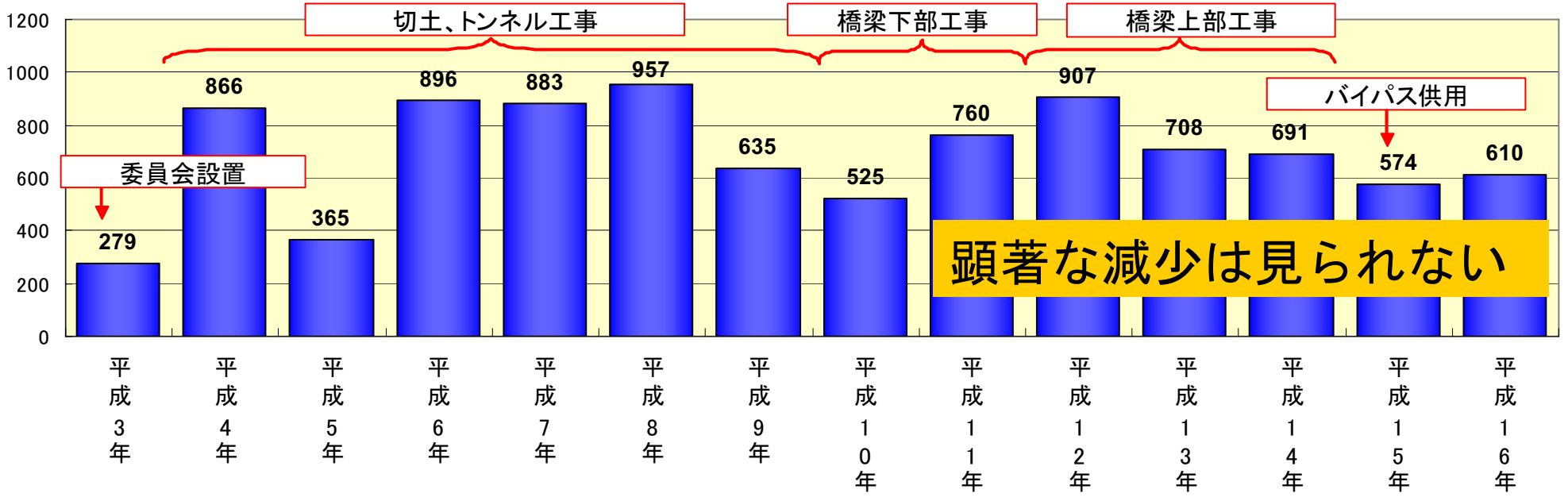
▼騒音レベルの変化



サギとの共存

【対策の実施】
●低騒音・低振動の工法を採用
●繁殖期は営巣箇所に近い場所の工事を避け、工事工程を調整

⇒工事中・供用後とも営巣数・営巣範囲に大きな変化はなく、サギ類の集団営巣と道路事業の共存が図られた



▲サギ類の営巣の経年変化

整備後の秋田南（あきたみなみ）バイパス



▲整備後の秋田南バイパス（臨海十字路付近から由利本荘方向望む）

事業の効果等

	計画時	実績
事業費	360億円	403億円（1．12倍）
交通量	22，700台/日 （H17）	23，692台/日 （H17）
費用効果分析結果 B／C	3．0	

※計画時のH17交通量については12次フレーム走行台キロの伸び率より算出

今後の対応方針(案)

事業化当初の目的である

・円滑な交通の確保

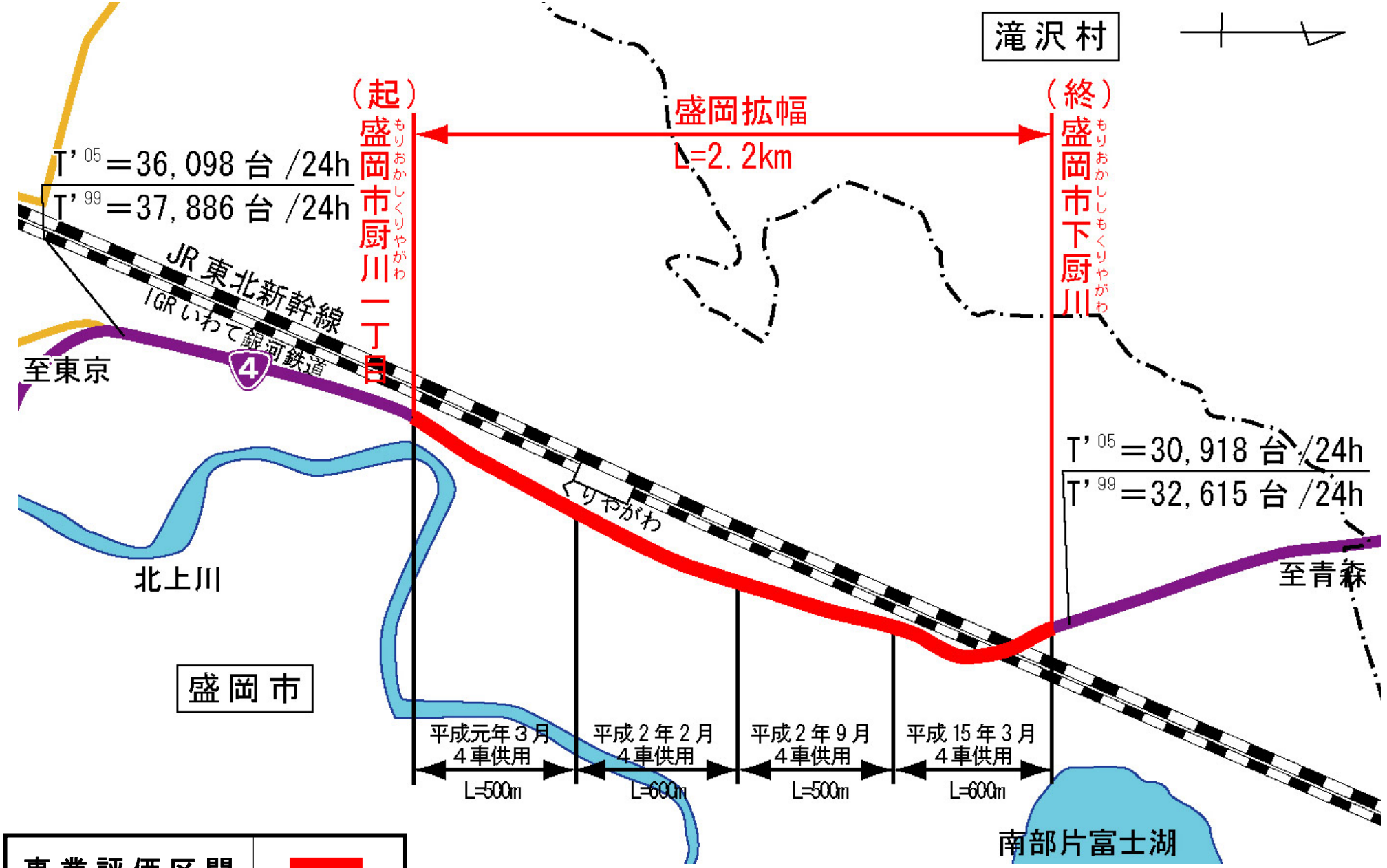
・安全性の確保

・沿道環境の改善

が図られている

改善措置及び今後の事後評価の必要性はない

一般国道４号　盛岡（もりおか）拡幅



一般国道４号　盛岡（もりおか）拡幅

【評価要件：事業完了後５年以内の事業】

〇事業の目的

・円滑な交通の確保
・交通安全の確保
・沿道環境の改善

〇延　　長　：　Ｌ＝２．２ ㎞
〇事　業　化　：　昭和50年度
〇工 事 着 手　：　昭和56年度
〇供　　用　：　平成14年度

活力ー円滑な交通の確保

主要渋滞ポイントが解消

整備前



整備後

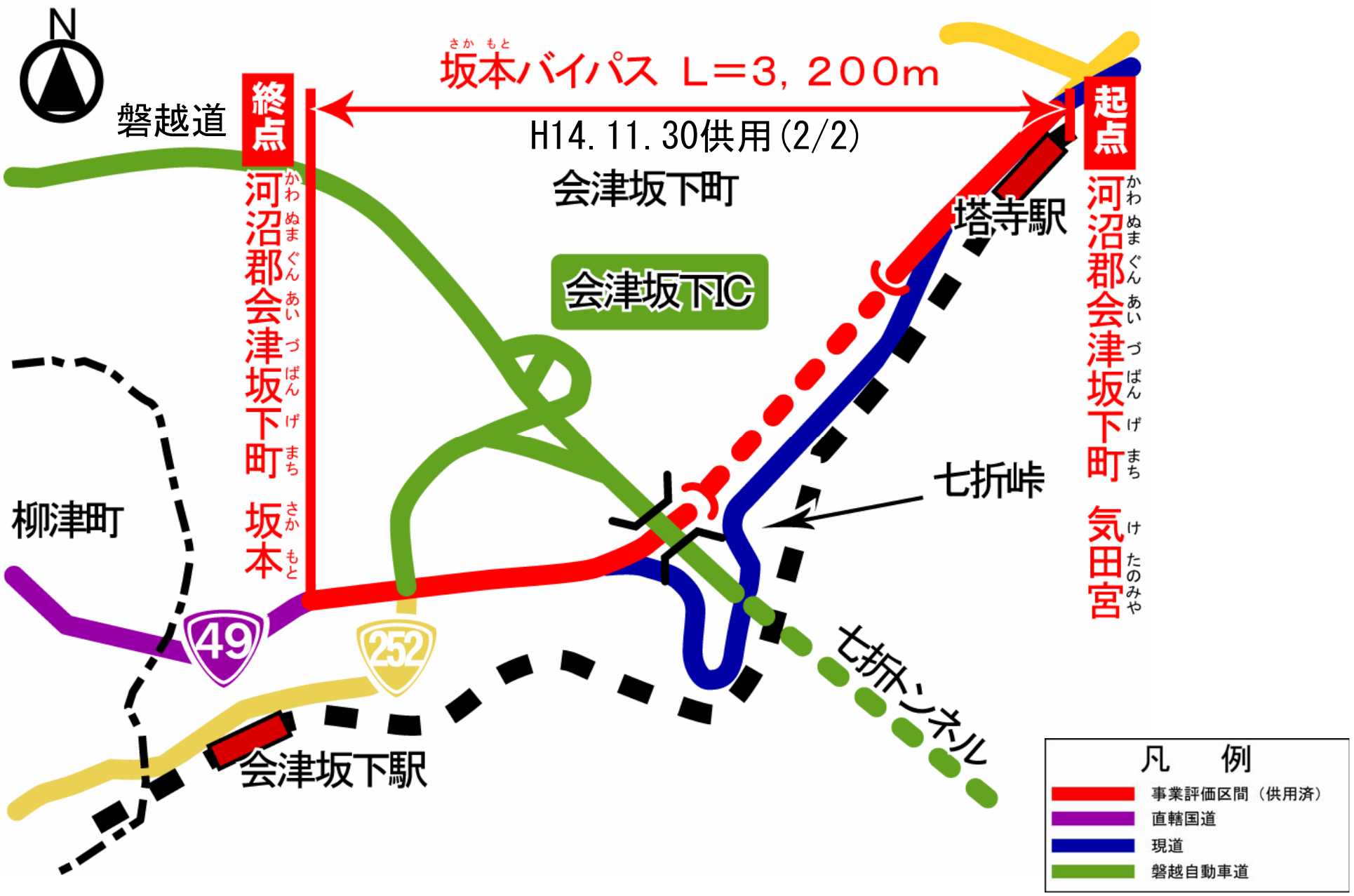


事業の効果等

	計画時	実績
事業費	74億円	74億円（1．0倍）
交通量	27，900台/日 （H17）	36，098台/日 （H17）
費用効果分析結果 B／C	4．5	

※計画時のH17交通量については12次フレーム走行台キロの伸び率より算出

一般国道４９号　坂本（さかもと）バイパス



一般国道４９号　坂本バイパス

【評価要件：事業完了後５年以内の事業】

○事業の目的

・円滑な交通の確保
・交通安全の確保
・ＩＣアクセスの強化

○延　　長　：　Ｌ＝３．２ ㎞

○事　業　化　：　平成１年度

○工 事 着 手　：　平成４年度

○供　　用　：　平成１４年度

安全ー安心な生活環境の確保

整備区間の状況

整備前



整備後



安全ー安心な生活環境の確保

整備区間の状況

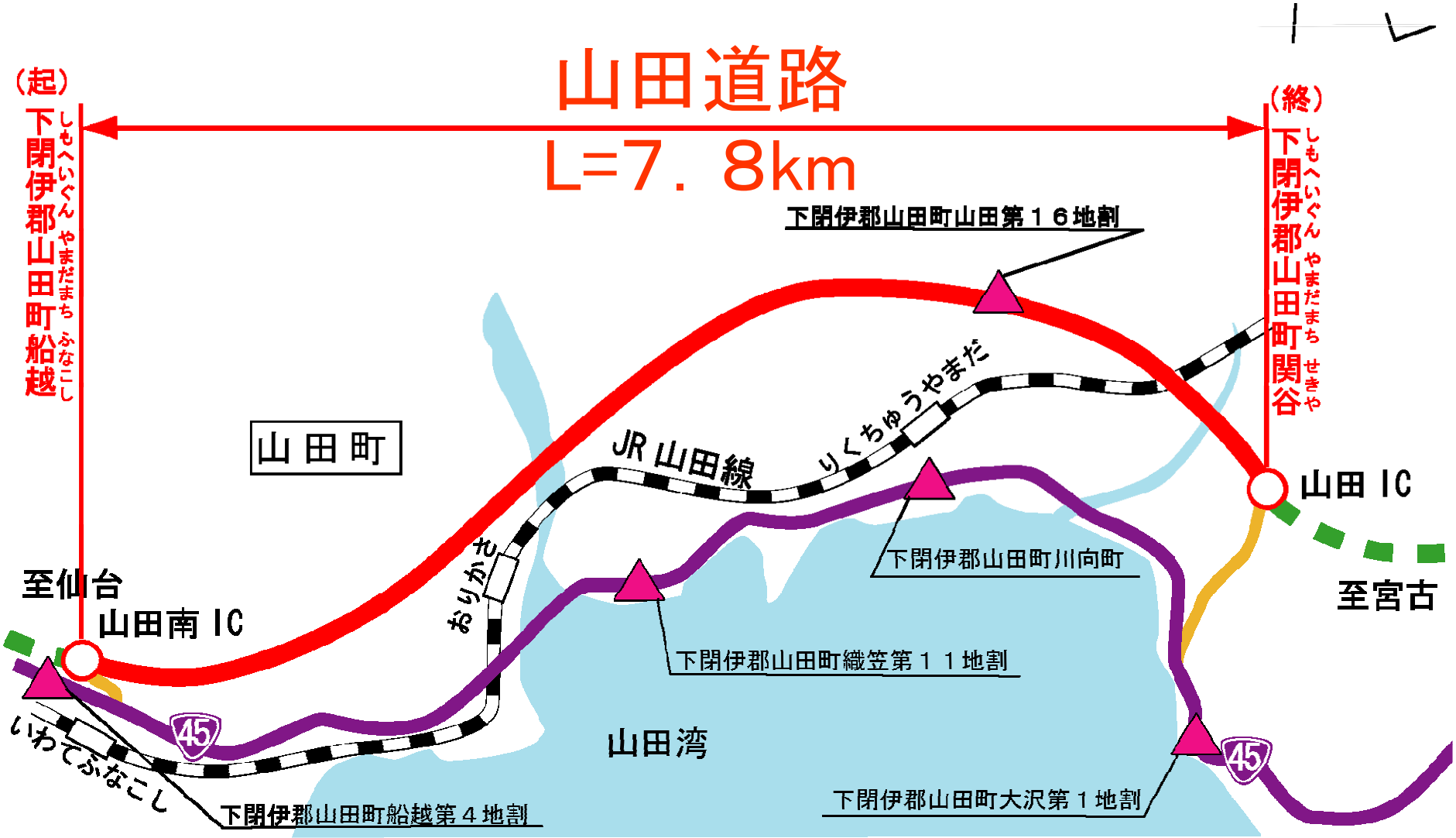


事業の効果等

	計画時	実績
事業費	48億円	94億円（1．9倍）
交通量	10，400台/日 （H17）	13，542台/日 （H17）
費用効果分析結果 B／C	1．6	

※計画時のH17交通量については12次フレーム走行台キロの伸び率より算出

高規格幹線道路　山田道路



一般国道４５号　山田（やまだ）道路

【評価要件：事業完了後５年以内の事業】

○事業の目的

・円滑な交通の確保
・防災機能の向上
・沿道環境の改善

○延　　長　：　Ｌ＝７．８ ㎞

○事 業 化　：　昭和６２年度

○工事着手　：　平成１年度

○供　　用　：　平成１４年度

現道区間の混雑が解消

整　備　前



整　備　後



山田（やまだ）道路の供用状況



▲山田道路の供用状況（織笠高架橋付近から仙台方面を望む）

事業の効果等

	計　画　時	実　　績
事業費	317億円	435億円（1．4倍）
交通量	4，700台/日　（H17）	2，271台/日（H17）
費用効果分析結果 B／C	1．5	

※H17計画時推計交通量は12次ﾌﾚｰﾑ走行台ｷﾛの伸び率より換算

地域高規格道路　新庄南（しんじょうみなみ）バイパス



地域高規格道路　新庄南バイパス

【評価要件：事業完了後５年以内の事業】

〇事業の目的

・円滑な交通の確保
・交通安全の確保
・沿道環境の改善

〇延　　長：Ｌ＝４．０ km
〇事　業　化：昭和６３年度

〇工 事 着 手：平成4年度

〇都市計画決定：平成6年度

〇部 分 供 用：平成１１年度(L=1.3km)

〇全 線 供 用：平成１４年度(L=2.7km)

現道の交通混雑が緩和

整備前



供用後



円滑な交通が実現

バイパス供用後



事業の効果等

	計画時	実績
事業費	111億円	132億円（1．2倍）
交通量	16，700台/日 （H17）	12，108台/日（H17）
費用効果分析結果 B／C	2．3	

※計画時のＨ１７交通量については１２次フレームの走行台キロの伸び率より算出